

自民党

高齢化率はすでに29%を超え、世界で最も高齢化が進んだ国となりました。一方で、生産年齢人口の急激な減少により、社会全体の担い手は減少の一途をたどり、支え手の負担は増え続けています。先進

日本は、今まさに歴史的な分水嶺に立たされています。
少子高齢化、人口減少、財政赤字、安全保障、そして世界経済の激動。
どれ一つとして単独では解決できない、複雑に絡み合った危機が私たちの未来を試しています。

「未来に誇れる日本」のために

子育て家庭をしっかりと支える社会をつくる力には、現金給付に加えて現物（サービス）給付の拡充です。
私の提案は、大きく三つ。第一に、妊娠・出産の無償化。第二に、「子育てケアマネ」制度の導入。第三は、全ての子育て家庭に対する「保育保障」。キーワードは、「ユニバーサル」。全ての子育て家庭を対象とすべきです。

少子化のトレンドを反転させるのは容易ではありません。それは、先進的な少子化対策を進めてきた欧州諸国における政策の限界を見れば明らかです。そこで私は、そもそもの政策目的を、出生率のV字回復を目指す方針から、生まれてくることもや現に生まれてきた尊い命をしっかりと育てる（誰ひとり取り残さない）社会の実現への抜本的転換を提唱したいと思います。私たちは、生まれてくる子どもの減少を嘆く前に、児童虐待死が年間350件を超える現状を直視し、生まれてきた子どもの命と健康を守り育くむ責任を深く認識すべきです。



私が幹事長を務める、超党派「こどもの貧困対策推進議連」で石破総理に緊急提言

「子育てケアマネ」を全国に展開して、こどもの未来保障を！
昨年の出生数は、ついに70万人を割ってしまいました。合計特殊出生率は8年連続で低下し1.2となり、東京都では1.0を切りました（0.99）。

第一の無償化では、妊娠から出産にかかる一切の経済的負担をゼロにします。第三の「保育保障」では、親の就労の有無を問わない真の「こども誰でも通園制度」の確立を急ぎます。さらに重要な第二の「子育てケアマネ」では、こどもの出産・育児についての心理的不安を払拭します。なんと母親の6割が生まれ育った土地以外で出産を経験し、4人に一人が産後うつに苦しみ、今や妊産婦の死亡原因のトップが自殺死というのです。加えて、新生児の虐待死亡事例も増大しています。

このように今、多くのお母さんたちは「フンオヘ育児」に悩んでいます。そこで非常に参考になるのが、フィンランド発祥の「ネウボラ」制度です。

私は5年前自費でフィンランドを訪れ、ネウボラの現場を視察しました。ネウボラは、母子共に最も不安定な産前産後期から就学までの約7年間、「かかりつけ」の保健師・助産師さん（完全歩走型！）が家族全員の健康チェックや相談カウンセリングを通じて子育て家庭に寄り添い、リスクを早期に発見し、専門的な支援に結び付ける画期的な仕組みです。



「児童の養護と未来を考える議連」の会長として、児童虐待ゼロを目指します

かつての日本に根付いていた子育て家庭に対する親族や地域による助け合いの伝統を「子育てケアマネ」によって代替させ、親子を取り巻く環境を劇的に変えたいと思います。

国で最も深刻な財政赤字を抱え、私たちの社会保障制度は世界に誇る仕組みでありながら、その持続可能性に黄信号が灯っています。

私たちは、30年にわたる長いデフレの間を、ようやく抜け出しつつあります。

企業の賃上げ、働く人々の所得増、成長と分配の好循環―その手応えが見え始めた矢先に、ウクライナ戦争に端を発した国際的なエネルギー価格の高騰。そしてトランプ政権の再登場による世界の政治・経済の不安定化が、新たな逆風となって私たちの前に立ちはだかっています。

安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑です。私たちは今、核を保有する、中・露・北朝鮮の三力国に囲まれ、平和と安定を前提とした「戦後の常識」が通用しない時代に生きています。したがって、防衛力の強化と同時に、外交力・情報力・経済力・技術力を結集した「総合安全保障体制」の構築が急務です。

こうした状況の中で、政治が果たすべきは、国民の不安に「耳を傾ける」ことだけではありません。むしろ、将来に責任を持つ政治家として「未来を示す」こと。短期的な人気取りに陥ることなく、国家の針路を示し、確かな舵取りに全力を挙げることです。

そのために必要なのは、「未来への投資」―すなわち、「人への投資」「科学技術への投資」「経済と安全保障の基盤への投資」を軸に、持続可能な社会と成長の好循環を実現することです。

ポスター掲示にご協力ください！



ご協力いただける方は事務所までご一報ください！

いよいよ夏の決戦、皆の力で勝ち抜こう！

武見 敬三
現 5、前厚生労働大臣
参議院自民党議員会長

こいそ 明
現 6、前総務会長
[南多摩（多摩市・稲城市）]

増山 あすか
現 1、政務調査会副会長
【府中市】

都議会議員候補予定者

長島昭久プロフィール

【現職】 ●自由民主党・衆議院議員8期目 ●東京30区(府中市・多摩市・稲城市)選挙区支部長 ●内閣総理大臣補佐官(国家安全保障担当) ●自由民主党組織運動本部長代理 ●衆議院財務金融委員会委員 ●超党派「児童虐待から子どもを守る議員の会」会長 ●超党派「こどもの貧困対策推進議員連盟」幹事長 ●「人権外交を超党派で考える議員連盟」会長 ●超党派「日華議員懇談会」副会長 ●日本の尊厳と国益を護る会台湾問題分科会座長 ●日本スポーツ協会参与 ●日本スケート連盟会長 ●東京都軟式野球連盟会長 ●東京都銃剣道連盟会長 ●東京都ゴルフ連盟相談役 ●東京都ディスクゴルフ協会名誉会長
【来歴】 ●昭和37年(1962年)2月17日生まれ、寅年 ●慶應義塾大学大学院修了(憲法学) ●米国ジョンス・ホプキンス大学(SAIS)で修士号取得 ●米国外交問題評議会上席研究員 ●防衛大臣政務官、防衛副大臣を歴任 ●慶應義塾大学法学部講師、中央大学大学院公共政策研究科客員教授
【家族他】 ●府中市在住 ●家族は、妻と娘2人 ●趣味はスポーツ観戦(スケート・野球・大相撲など)、読書、水彩画 ●大好物 とんかつ ●苦手なもの ジェットコースター

長島昭久後援会事務所 ー後援会員募集中ー
自由民主党東京都第三十選挙区支部 〒183-0022 東京都府中市宮西町4-12-11 モア府中2F
TEL：042-319-2118 FAX：042-319-2119 <E-mail> info@nagashima21.net 討議資料



衆議院議員
内閣総理大臣補佐官

長島昭久

- 具体的には、
- ・こども・子育て支援と教育の無償化により、将来世代を育む土台をつくる。
 - ・半導体、AI、ロボット、量子技術といった戦略産業に対して大胆な官民投資を行う。
 - ・医療・介護・年金制度を「持続可能なかたち」に再設計し、支える世代と支えられる世代の共生を図る。
 - ・戦略的外交と安全保障協力を車の両輪に、インド太平洋の平和と繁栄に日本が主導的役割を果たす。
 - ・エネルギー安全保障と脱炭素革命(GX)によって、環境と成長を両立させる。

未来は、待っていても訪れません。つくるのは、私たち一人ひとりの意志と行動です。
私は、この危機を乗り越え、「未来に誇れる日本」を築くために、全身全霊をもって責任ある政治に邁進する覚悟です。



総理表敬に訪れたヘグセス米国防長官と、中谷防衛大臣を交え懇談



石破総理のベトナム、フィリピン歴訪に総理補佐官として随行



今年も大國魂神社くらやみ祭りに参加させていただきました

長島昭久 一年間を 振り返る

2024年6月～
2025年5月



自民党青年部と共に多摩市内で拉致被害者の即時一括帰国を訴える



セキュリティ・クリアランス法制について、高市早苗経済安全保障担当大臣（当時）に党の見解を説明



増山あすか都議候補の決起集会で、会場全体で「勝つぞー」



総理補佐官として海上自衛隊横須賀基地を視察



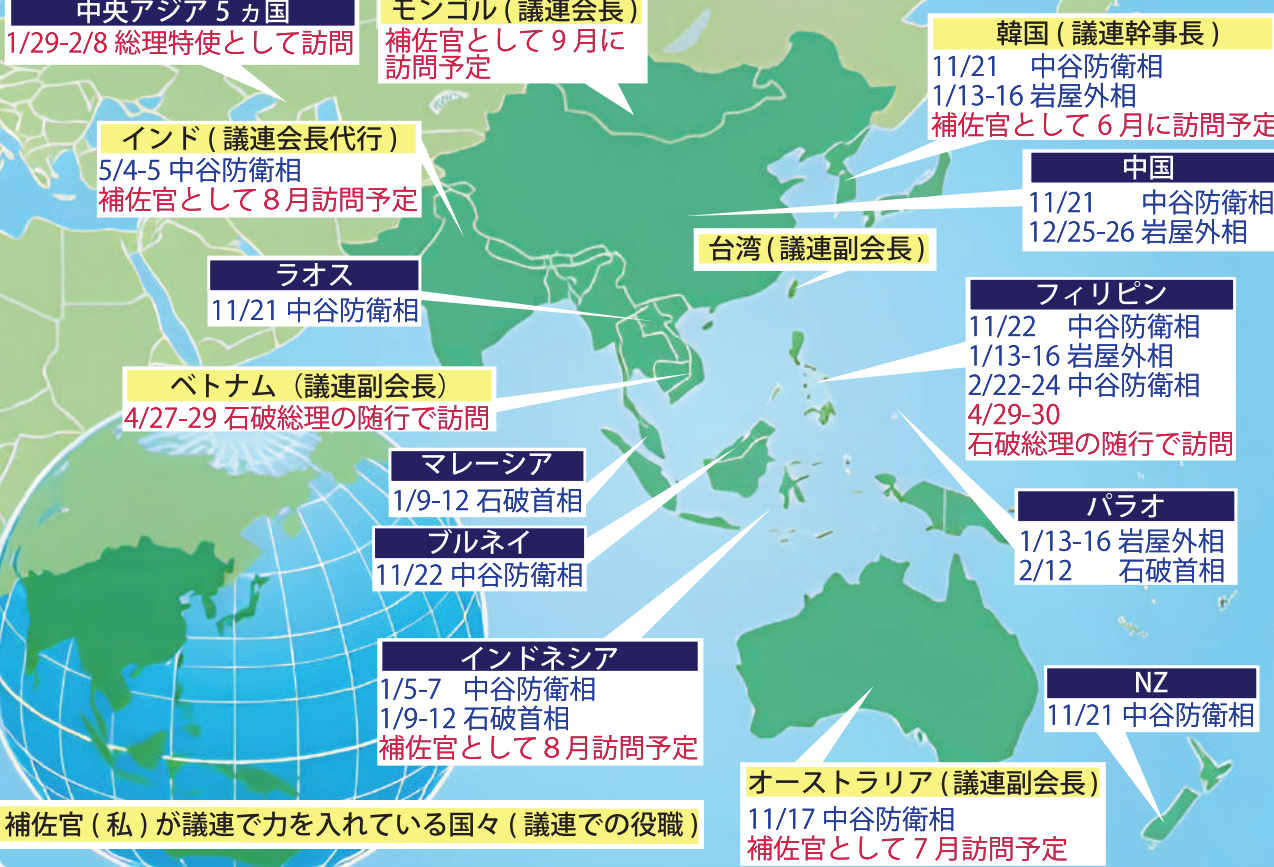
稲城市防災訓練に、高橋市長と地元女性防火クラブの皆さまと



衆議院選挙の最終街頭演説会には、けやき並木に皆さまが集結



10月の厳しい衆議院選挙では、小林鷹之代議士に応援いただく



国民の皆さまのご理解を得つつ、この新たな国家戦略に基づき、積極的な行動で国際秩序の再編をリードしてまいります。

私は、その覚悟をもって、国家安全保障担当の内閣総理大臣補佐官の職責を全力で果たしてまいります。

私たちの未来は、かつてのようには「アメリカに任せておけばいい」時代には戻りません。今こそ日本が、自らの戦略で、自らの未来を切り拓くときです。

これらを柱に、日本独自の戦略的構想力を持って、地域の平和と安定、そして私たちの未来を守っていかねばなりません。

豪州、インド、韓国、台湾、ASEAN諸国との安全保障協力力の推進

経済連携とインフラ支援を通じた信頼と繁栄のネットワーク構築

中国による現状変更に対する域内同志国との抑止体制の能力強化

グローバル・サウス諸国への包摂的な柔軟外交の展開

戦略的自律は、地力をつけて（抑止力・対処力の強化）、仲間を増やす（同志国連携の拡大深化）ことによって実現されます。特に重要なのが・・・

そのためには、米国の退潮を補い、地域秩序の維持を支える「戦略的自律性」を確立することが必要です。

両国指導者は、経済と安保の両面で日本のさらなるリーダーシップに大きな期待を表明しました。

日本の未来を守るためにー新たな外交・安全保障戦略の構想ー

世界はいま、大きな地殻変動の只中にあります。トランプ政権の再登場で、戦後の国際秩序を支えてきた力のバランスが揺らぎ、かつてない不確実性が私たちの平和と繁栄を脅かしています。ウクライナ戦争の終わらせ方を誤れば、それがインド太平洋地域の安全保障に暗い影を落としかねません。

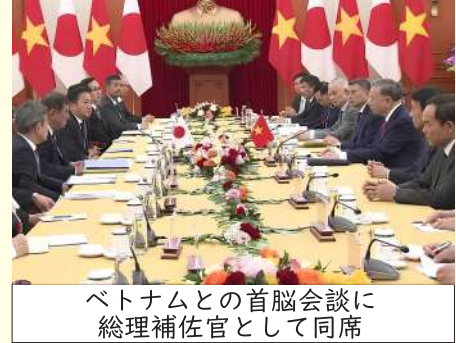
第一に、米中対立の激化です。中国による急速な軍拡と、その軍事力を背景とした南シナ海や東シナ海、台湾海峡などでの力や威圧による一方的な現状変更の試み。これにより、インド太平洋地域の安定は大きく揺らいでいます。

第二に、アメリカの政治が内登場によって、トランプ政権の再登場により、自由で開かれたインド太平洋を守るという米国の

このからの日本は、単なる「米国の同盟国」にとどまらず、「地域秩序の支柱」として、より積極的に国際社会の平和と安定と繁栄をつくり出す覚悟が必要です。そのことは、今年4月に石破総理と共に訪れたベトナム、フィリピンでも痛感しました。

こうした現実には、日本はどうか。立ち向かうべきでしょうか。

第三に、その隙間を縫うように、中国が外交攻勢を強め、グローバル・サウスを中心とした諸国に影響力を拡大しています。台湾への統一圧力、北朝鮮とロシアの軍事連携の深化、韓国の内政不安など、地政学的リスクは複合化し、かつてない水準に達しています。



ベトナムとの首脳会談に総理補佐官として同席



昨夏で4回目を迎えた「台湾有事シミュレーション」で、米国チームを率いて日本政府と協議



夏の盆踊りでは、地域の皆さまの踊りの輪の中に飛び込みます！



TV出演を通じて、得意の安保政策を発信し続けます



稲城市百村の無形文化財「蛇より」をこいそ明都議と体験



こども政策は、「未来に誇れる日本」づくりの大切な柱の一つです



寒さにも負けず、暑さにも負けず、とことんコツコツ地元活動



多摩市熊野神社の例大祭にて、神輿会の皆さまと



東京30区支部大会は、党員党友の皆さまで大國魂神社の会場が満杯に



地元小学校の国会見学では質問攻めに！一つひとつ丁寧に回答します



総裁選直前の8月には、石破元幹事長（当時）と台湾を訪れ、頼清徳総統らと会談